

■久永市議の質問に対する福祉子ども部長の答弁 2017年6月議会(5月25日)

私から御質問の1番目「暮らしとつながる平和行政について」の2点目から5点目までについてお答えいたします。

はじめに、1番目の2点目の「大府市として、世界へ向けての平和への発信は、具体的にどのような行っていく考えか」についてでございますが、平成22年4月に本市が加盟いたしました平和首長会議は、世界の都市が緊密な連携を築くことによって、世界恒久平和の実現に寄与することを目的としているもので、広島市長が会長を務め、長崎市長が副会長を務めております。この会議に参加すること自体、世界への発信と認識しております。

次に、3点目の「これまで「平和」は「健康都市」の中に含まれるとしてきたが、今後、どのような位置付けを考えているのか」についてでございますが、本市は、健康都市とは「市民一人一人が心身ともに健康であると同時に、市民が生活する地域社会や都市が健康であること」と定義し、健康都市実現の取組を行うことによって、市民のみなさまが健康で幸せに暮らせる平和な社会を築いてゆく考えですので、位置付けを変えるものではございません。

次に4点目の「市民との「平和」の共有について」の1項目目「平和首長会議や平和に関わる式典で得たものをどのように市民に伝えていく考えか」及び2項目目「今後、平和への取組を市民とどのように進めていく考えか」についてでございますが、関連がございますので、一括してお答えいたします。

本市は、昨年宣言いたしました平和都市宣言の中で、「先人から引き継いだかけがえのない平和のバトンを守り、次の世代の子どもたちにしっかりと渡していくことは、今を生きる私たちの果たさなければならない重大な責務です。」と平和な社会の継続の責任を明示するとともに、市民のみなさまに平和について考えていただける機会を提供できるよう、様々な方法で進めております。

具体的には、昨年度、歴史民俗資料館において「戦争体験を語り継ぐ有志の会」の方々が行った『語り継ぐ戦争体験・大府の戦争記録』の展示と話し合う会」を後援するとともに、歴史民俗資料館が保管している戦争に関する資料の貸出を行いました。

本年度は、「平和」の尊さ、重要性について考える機会として、7月30日に平和朗読会を開催いたします。原爆によって両親を亡くした子ども、子どもを亡くした両親が書き残した手記を6名の女優と5名の市内中学生によって朗読いただくものです。

さらに、9月1日には、市民のみなさまが目にした機会に平和について考えるきっかけとなるよう、平和都市宣言の石碑を設置するとともに、健康で幸せに暮らせる平和な社会の実現を市民の総意・総力を結集して目指すことを改めて自覚するきっかけとなるよう、健康づくり都市宣言の石碑を設置いたします。同時に、広島の被爆樹木「アオギリ」2世の苗木を植樹いたします。

次に3項目目「大府市に関わる戦争の記録などから、生活の中で「平和」を感じる取組を広げてはどうか」についてでございますが、戦争を知らない私たちが最も戦争を感じるのは、世界で他に経験のない原爆の投下が行われ、第2次世界大戦が終わった8月であると思います。全国戦没者追

悼式が開催され、テレビ放送や新聞記事など、マスコミによる発信もこの時期に集中しております。

夏は、先の大戦を振り返り、平和の尊さを改めて考える機会であると認識しており、毎年8月に、本市は、原爆パネル展を市役所の市民健康ロビーを会場として開催しております。

また、年末には、9つの公民館を展示会場として、そして、年明けには、9つの児童老人福祉センターと子どもステーションを展示会場として、原爆パネル展を開催しており、8月以外にも平和を感じる取組に努めているところでございます。

次に5点目「子どもたちへの平和教育について、具体的に考えていることは何か」についてでございますが、既に市長から新たな取組について検討するよう指示が出されておりますので、平和都市宣言に沿った、次の世代の子どもたちにしっかりと平和のバトンを渡していける取組を検討しているところです。

以上です。